

2019年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 2 限目》

《講座のメインテーマ》

防災・減災の取り組み

その具体的な進め方！

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2019年10月17日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半：『大学と地域が連携した安全な避難など防災力向上への取り組み』

講師：梶田 佳孝 氏(東海大学工学部教授)

・後半：『自然災害から身を守る災害地質の知識』 ~神奈川県は危ないか~

進行：稲垣 秀輝 氏(株式会社環境地質 代表取締役会長)



講義の様子

《多様な災害への対応を自治体や地域住民と連携して確立》

- 地域住民と連携して実践する活動には学生を積極的・主体的に関与
 - ・大学近郊地域（自治会など）の防災マップづくり
 - ・Twitter を利用した災害時情報発信訓練など（スマホ使用）

防災マップづくり(上)

Twitter システム(下)

《Twitter を用いた災害情報共有システム》

地名・ハッシュタグ・UTM 座標が付与される地域に展開したのが4年前

- DITS(Disaster Information Tweeting System)
 - ・投稿：市役所前の道路が水没し、車は通行できません。
 - ・表示：#平塚市災害
「神奈川県平塚市浅間町9番」周辺
市役所前の道路が水没し、車は通行できません。
UTM：54SUE50051150（現在地の座標が表示）
- DIMS(Disaster Information Mapping System)
 - ・DITS で投稿された Twitter を地図上に表示

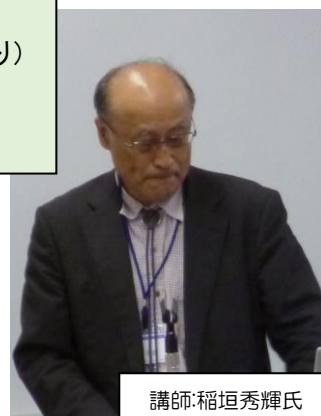


講師：梶田佳孝氏

『自然災害の種類 その危険な箇所を知る』

現場写真や地形図を使って問答式に危険な箇所の知り方を紹介

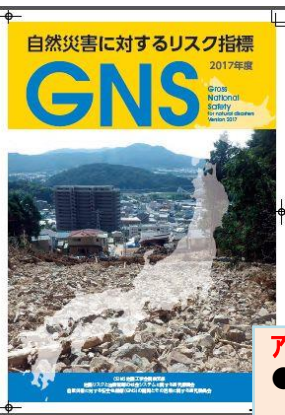
- 地震・津波・液状化・谷埋め盛土すべり ●豪雨土砂災害(崖崩れ・土石流・地すべり)
- 洪水・高潮 ●火山噴火(降灰・噴石・火砕流・泥石流など)
- 雷・火事・竜巻 ●地盤沈下・地盤隆起



講師：稲垣秀輝氏

『住民避難のあり方』

- ・法的な危険箇所の指定は有用であるが、指定箇所それだけを鵜呑みにしない
- ・豪雨時の非常の時には昔ながらの恐ろしい言葉を使って避難を早める（正常性バイアスのはずし方）
- ・被害を受けやすい土地・崖や避難のあり方、そして避難所の位置は重要



《自然災害に対するリスク指標 GNS》 Gross National Safety

◇自然災害に対する国家の安全度を計る統一的な数値的指標（都道府県別）

神奈川県 GNS：全国 8 番目 (7.00) に高いリスク

①徳島県 (8.97)、⑤東京都 (7.67)、④鳥取県 (0.77)

◇脆弱性：ハード対策（住宅・施設、ライフライン、インフラ、情報・通信）

ソフト対策（物資、医療、経済と人口、保険、条例自治）

◇曝露量：地震、津波、高潮、土砂災害、火山災害

アイスブレイク出題 『防災めぐり・子ども版』から

- 海岸から少し離れた川の近くで遊んでいると、大きな地震が起こった。家は近いので、高台には逃げずに、急いで家に帰ることにした。あなたの意見は？：「それは良い」か「別の考えがある」のどちら。



田中栄治さん